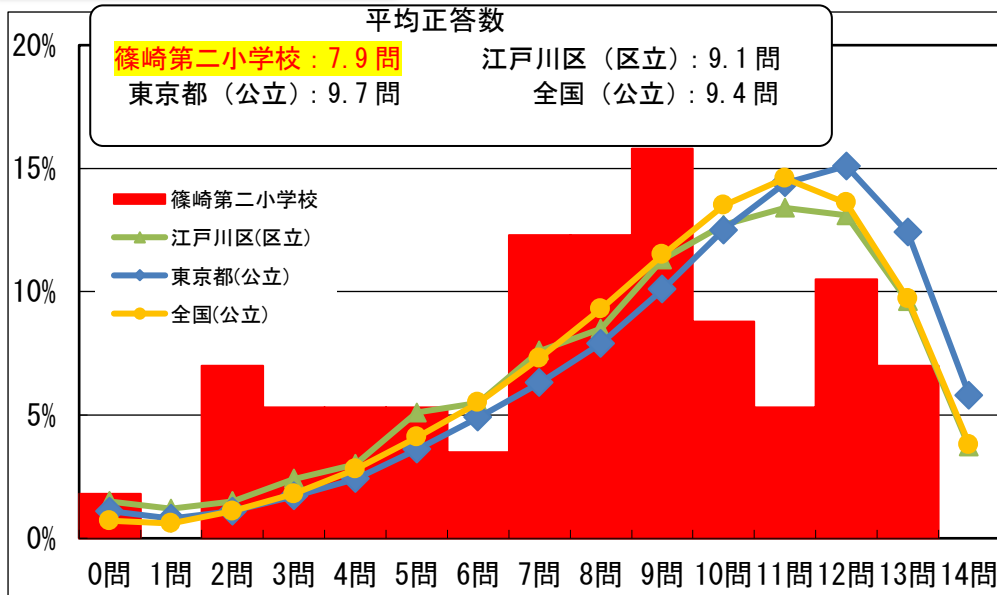


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 篠崎第二小学校

正答数分布



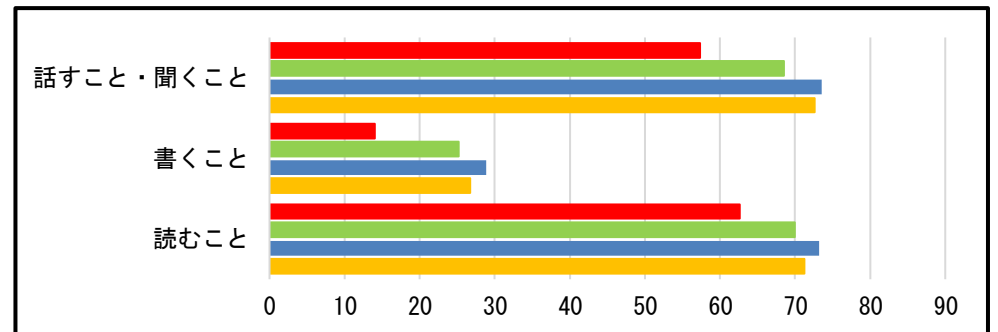
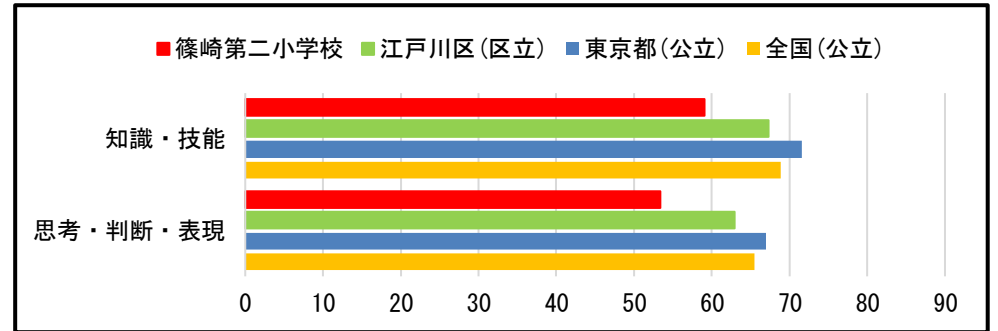
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	A層 12～14問	B層 10～11問	C層 8～9問	D層 0～7問
篠崎第二小学校	17.5	14.1	28.1	40.3
江戸川区（区立）	26.4	26.1	19.8	27.7
東京都（公立）	33.3	26.9	18.0	21.8
全国（公立）	27.1	28.1	20.8	24.0

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

篠崎第二小学校	56%
江戸川区（区立）	65%
東京都（公立）	69%
全国（公立）	67.2%
都との差	-13ポイント

%

【分析結果と授業改善に向けて】

【分析結果】

- 全体の平均正答率、領域別の正答率が、共に東京都の平均を10ポイント以上下回っている。
- 東京都を基準としたC、D層の割合が約68%であり、国語の学力の定着が不十分であると言える。

【授業改善に向けて】

- 校内研究で国語を取り上げる。「篠二話し合いスタンダード」を定め、各学年における話し合いの目標を示し、児童一人一人の話し合いの力を伸ばし、自分の考えをよりよいものにできるようにする。
- 国語の学習だけに限らず、どの教科においても、学習感想やまとめを記入させる際に、文字数を制限したり、キーワードを用いて記入させたりする。
- 読書科を計画的に行い、様々な図書に触れ合うことで、読んで、考えて、表現することに慣れさせる。